2024年4月18日

報道関係各位

GMO インターネットグループ株式会社

最新生成 AI「Gemini」「Claude3」が「Slack」上で利用可能に 〜従来の「GPT-4」「DALL-E」も利用可能、パートナーの「AI 活用」を後押し〜

GMO インターネットグループ(グループ代表: 熊谷 正寿)は、"すべての人にインターネット"をスローガンに、インターネットインフラ、広告、金融、暗号資産事業を展開しています。さらに、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループを挙げて生成 AI の活用を推進しています。

このたび、生成 AI のさらなる利用促進に向けて、GMO インターネットグループ株式会社の全パートナー (従業員)が、生成 AI モデル「Gemini Pro」と「Claude3」を、コミュニケーションツール「Slack」上で利用できるようになりました。すでに、「GPT-3.5」と「GPT-4」も利用できる環境を提供しており、パートナーが「一度に複数の生成 AI モデルに依頼をし、そこから人間が最適解を選ぶ」という、よりクリエイティブな生成 AI の活用ができるようになりました。

今後も GMO インターネットグループは、生成 AI 活用促進に向けた各種施策を進めてまいります。

[**A**] で未来を創る**No.1**企業グループ] 実現への取り組み

GMOINTERNET GROUP

【「AI(愛) しあおうぜ!プロジェクト」の取り組み】

GMO インターネットグループは、全パートナーが AI を活用できる「AI 人財」^(※1) となることを目指しています。時間とコストを節約し生産性を高めることで、創出した時間でよりクリエイティブな業務を行い、AI を活用した各種プロダクトやサービスの開発を加速することで、すべての人の「笑顔」と「感動」を創出することを目指しています。

ビジョンの実現に向けて、2023 年にグループ内に AI 活用を推進する「AI(愛)しあおうぜ!プロジェクト」を立ち上げ、各種取り組みを推進しています。2024 年以降に取り組む施策の策定にあたり、2024年3月にグループ各社の国内全パートナーを対象に実施したアンケート調査を実施しました。その結果、生成 AI ツールの有料版を利用できていないパートナーの 74%が、有料ツールの利用を希望している実態が判明しました。

今回、こうしたパートナーの生成 AI 活用意欲に応え、「AI 人財」の育成と、AI 活用のさらなる促進をすべく、有料版の生成 AI ツールを各自での登録・申し込み不要で即座に利用できる環境を提供することにいたしました。パートナーは、各モデルを業務によって使い分けたり、複数モデルから異なるアイデアをもらったりするなど、よりクリエイティブな生成 AI 活用を、簡単に行うことができます。

(※1) GMO インターネットグループでは、人材ではなく人財という言葉を使用しています。

■複数の生成 AI モデルとの会話例

複数の生成 AI モデルに「一度に依頼」をし、「複数の回答」を同時に得ることができます。最適解を「人間が選ぶ」という、よりクリエイティブな生成 AI の活用を実現しています。



▲会話例:生成 AI を交えた複数人での会話も可能

【「Slack」上で提供しているモデル】

いずれのモデルも GMO インターネットグループ株式会社のパートナーが、「Slack」上で各モデルをメンション(例:@GMO ChatGPT4 等)することで利用できます。また、データ学習をされない環境で提供しているため、安全に利用できるという利点があります。

<既存モデル>

- 「ChatGPT」(OpenAI)
- 「GPT-3.5」
- 「GPT-41
- 「DALL-E」

<新規モデル>

- 「Gemini」 (Google)
- 「Gemini 1.5 Pro」



■ 「Claude」 (Anthropic)

「Claude 3 Sonnet」



【生成 AI アプリを利用しているパートナーの声】

アプリケーションを利用しているパートナーからは、以下のような声が上がっています。

- ・一人ひとりが各種生成 AI の有料版を契約すると手間がかかり、コストも高くなるので非常に助かる。
- ・使いたい生成 AI を Web ブラウザで切り替えなくても、「Slack」上でシームレスに使えるのは嬉しい。
- ・「Slack」での提供がなければ、すでに契約している「ChatGPT Plus」で満足してしまい、有料の「Gemini」や「Claude」は試していなかったかもしれない。
- ・「Slack」のチャンネルに生成 AI を組み込むことで、活用の幅が広がり業務効率化や質の向上につながっ ている。

【担当者コメント】

■ GMO インターネットグループ株式会社

「AI(愛) しあおうぜ!プロジェクト」プロジェクトリーダー 李 奨培(り じゃんべ)

2024年に AI 活用のスローガンを「AI 活用 No.1 企業へ」から「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」に刷新し、経営目標スローガンに据えています。我々のチームの足元の最大の目標は、AI 活用の環境を1日でも早く整えることです。今回の「Gemini Pro」、「Claude3」への対応だけではなく、最新の生成AI を皆が安全かつ気軽に使えるような環境づくりに、引き続き尽力してまいります。

【GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

GMO インターネットグループは、「AI で未来を創るナンバー 1 企業グループへ」を掲げ、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を軸に、グループ全パートナーを挙げて AI の活用、AI 関連サービスの提供を進めています。

①時間とコストの節約

<例>

- 1. 2023 年 4 月より 1 年間、賞金総額 1,000 万円の社内公募コンテスト「AI(愛)しあおうぜ! ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施しました。AI に関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装されました。
- 2. AI に関する最新動向や最新ツールの理解を深めるため、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
- 3. AI に関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトや GPTs の共有、 その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
- 4. 非エンジニアを対象としたリスキリング施策として、社内の有識者が講師となる 3 か月間の短期 AI 人財育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
- 5. グループの全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途 採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
- 6. 「Slack」上で「ChatGPT」等の生成 AI を使えるようにし、情報が学習されないクローズドな環境で 有料ツールを利用できる環境を提供しています。

②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。

詳しくはこちら(https://www.gmo.jp/ai-history/)

③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

- 1. 2023 年 5 月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI & Web3 株式会社」へと 社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を 実施しています。
- 2. 簡単に使える超高速 VPS『ConoHa VPS』にて、NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。(https://www.conoha.jp/)

3. 2023 年 12 月に NVIDIA 社とパートナー契約を締結し、NVIDIA のパートナープログラムである「NVIDIA Partner Network」に参画しました。NVIDIA との協業を加速させ 100 億円規模の GPUサーバーを取得することとしています。

(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)

4. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(https://oshiete.ai/)

【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を主軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 106 社に在籍する約7,400 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者(エンジニア・クリエイター)が 50.1%を占めています。(※2)

(※2) 2023年12月末時点

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社 グループコミュニケーション部 広報担当 青柳

TEL: 03-5456-2695 問い合わせフォーム: https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL: https://www.gmo.jp/)

会	社	名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード:9449)
所	在	地	東京都渋谷区桜丘町 26番1号 セルリアンタワー
代	表	者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事	業内	容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット広告・メディア事業
			■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資	本	金	50 億円

Copyright (C) 2024 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.